

A N N U A L R E P O R T 2 0 2 3

年次報告書



公益財団法人 国際花と緑の博覧会記念協会

ごあいさつ



公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会会長

御手洗 富士夫

当協会は、1990年に開催された「国際花と緑の博覧会」の「自然と人間との共生」という理念を永く継承発展させるため1991年11月1日に設立され、以後、潤いのある豊かな社会の創造に向けて、様々な事業を行ってまいりました。

令和5（2023）年度は、主要事業である「コスモス国際賞」の第30回の節目を迎え、「コスモス国際賞30回記念のつどい・シンポジウム」を天皇皇后両陛下のご臨席を仰ぎ、過年度の受賞者複数名をお迎えし、開催できましたことは、大変光栄で喜ばしいことと存じます。

2023年（第30回）の受賞者には、米国ノートルダム大学名誉教授のクリスティン・シュレイダー＝フレシェット博士を選出いたしました。体調不良のため来日が叶わず、授賞式および記念のつどい・シンポジウムにはビデオメッセージをお寄せいただきました。シュレイダー＝フレシェット博士は、多様な環境と人間との関係を考究され、「環境正義」と「世代間公平」の重要性を提唱されました。その中でも博士自身が積極的に関与された定量的リスク評価手法に基づく「環境正義」は、誰もが公正に扱われ、健全な環境で暮らせる社会の実現を目指す際に不可欠な概念として、現代では、政策立案や環境問題を論ずる際に考慮すべき必須事項となっております。

また、普及啓発事業におきましては、全国の高校生が地域の自然や生き物、それに関わる人々の暮らしを調査、撮影するコンテスト「ネイチャー甲子園」を新たにスタートさせることができました。

今後とも、各事業をさらに充実、推進してまいり所存でございますので、皆様方の引き続きのご支援とご協力をお願い申し上げます。

本書は、令和5（2023）年度の当協会の事業の取り組みをまとめたものです。ご一読いただき、各事業の趣旨並びに取り組みについてご理解をいただければ幸いに存じます。

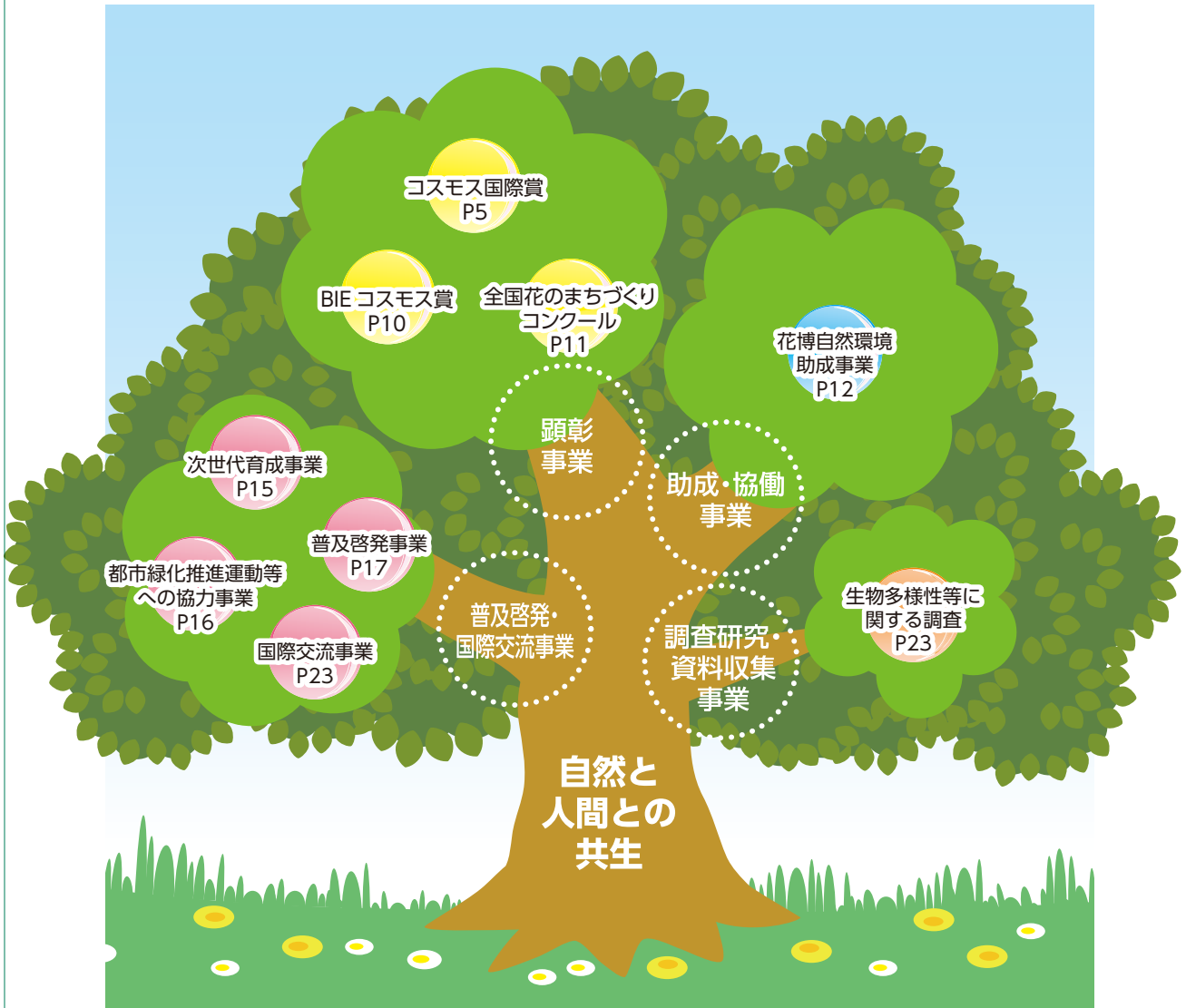
天皇皇后両陛下ご臨席



天皇皇后両陛下は、コスモス国際賞30回記念のつどい・シンポジウムにご臨席になられた。
(令和5年11月14日 国際連合大学にて)

事業概要

公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会は、潤いのある豊かな社会の創造に寄与することを目的として、「自然と人間との共生」という理念の継承・発展につなげる事業を実施しています。



設立趣意書

平成2年4月1日から9月30日までの183日間、大阪・鶴見緑地において開催された国際花と緑の博覧会(以下「花の万博」という。)は、多くの人々に花と緑に象徴される命、それをはぐくむ大きな自然の営みに目を向けさせ、新鮮な感動を呼んだ。人間も自然のなかで生きる存在としてとらえ、自然と人間との共生の道をさぐるうとした博覧会のねらいは、ひとまず達成されたものと考えられる。

しかし、こうした理念の下に21世紀に向けて潤いのある豊かな社会を創造していくためには、国をあげてのたゆみない継続した努力が必要とされる。その点火役となった博覧会を一過性に終わらせることなく、その基本理念を継承、発展させ、新しい社会創造の動きに結実させていくことは、われわれ博覧会にたずさわった者の責務であるとする。

そのため、博覧会にたずさわった関係者の協力を得て、ここに財団法人国際花と緑の博覧会記念協会を設立し、21世紀に向けた潤いのある豊かな社会創造の一助とすることにより永くその責務をはたそうとするものである。

平成3年11月1日

顕彰事業

1. コスモス国際賞

「自然と人間との共生」という花の万博の理念を継承し、さらに発展させるため、この理念に沿った国内外の優れた研究活動や業績を顕彰する「コスモス国際賞」(以下「コスモス賞」という。)が2023年に第30回の節目にあたることから、30回記念事業及び授賞式を開催すると共に、受賞者の選考を行いました。

コスモス国際賞
30回記念の
つどい・
シンポジウム

天皇后両陛下のご臨席のもと、コスモス国際賞30回の節目を記念した、「コスモス国際賞30回記念のつどい・シンポジウム」を、歴代受賞者や関係者を招き開催しました。

日 時：令和5年11月14日(火)午後2時～午後5時10分
場 所：国際連合大学 ウ・タント国際会議場(東京都渋谷区)
後 援：農林水産省、国土交通省、文部科学省、環境省、米国大使館

参加者数：250名
次 第：

開会、主催者等紹介 司会 松尾 剛
主催者挨拶 協会会長 御手洗富士夫
天皇陛下おことば
来賓祝辞

中村桂子(JT生命誌研究館名誉館長)
ディミトリ・ケルケンツェス(博覧会国際事務局(BIE)事務局長)…ビデオメッセージ

コスモス国際賞30回の歩み
山極壽一(コスモス国際賞委員会委員長)

2023年コスモス国際賞受賞者メッセージ
クリスティン・シュレイダー=フレッシュト(2023年受賞者)…ビデオメッセージ

2009年コスモス国際賞受賞者講演
グレッチェン・カーラ・デイリー (2009年受賞者)…ビデオメッセージ

2022年コスモス国際賞受賞者講演
フェリシア・キーシング(2022年受賞者)

コスモス国際賞30回記念講演
沖 大幹(コスモス国際賞選考専門委員会委員)

トークセッション
パネリスト 岩槻邦男(2016年賞受賞者)
フェリシア・キーシング(2022年受賞者)
コーディネーター 白山義久(2011年受賞団体メンバー)



顕彰事業

受賞者の選考等 コスモス賞委員会(以下「賞委員会」という。)及びコスモス賞選考専門委員会(以下「選考委員会」という。)を設置し、次の選考作業を行いました。

<2023年(第30回)受賞者の選考・決定等>

- ・第1回、第2回選考委員会(令和5年5月10日、5月24日)
- ・第3回選考委員会(令和5年6月16日)
- ・第2回賞委員会(令和5年6月16日)

2023年受賞候補者にクリスティン・シュレイダー=フレシェット博士(ノートルダム大学 オニール家講座 名誉教授)が選定されました。

- ・第119回理事会(令和5年7月12日)

賞委員長より選考の経緯及び結果が報告され、受賞者として決定しました。

また、同日午後、国内外の報道機関に対して記者発表等を実施しました。



2023年(第30回)コスモス賞受賞者
クリスティン・シュレイダー=フレシェット博士
(ノートルダム大学 オニール家講座 名誉教授)

定量的リスク評価に基づく「環境正義」の概念が重要であることを提唱し、環境問題に対する姿勢に警鐘を鳴らしてきた。

<2024年(第31回)受賞者の選考等>

- ・第1回賞委員会(令和6年2月1日)

2023年
(第30回)

コスモス国際賞
授賞式の開催

オンライン及び国内外からの賓客及び招待者約350名の参列のもと、厳粛かつ華やかに実施しました。

授賞式

日 時：令和5年11月8日(水)午後3時~5時

場 所：住友生命いずみホール(大阪市中央区)

出席者：約350名(オンライン参加含む)

次 第：

主催者紹介

来賓紹介(2016年コスモス国際賞受賞者岩槻邦男博士、2022年コスモス国際賞受賞者フェリシア・キーシング博士、ジェイソン・R・クーバス在大阪・神戸米国総領事館総領事、安藤隆農林水産省近畿農政局長様、中橋宗一郎国土交通省近畿地方整備局建政部長、三原桃子大阪府都市整備部理事、橋本広志大阪市建設局理事)

主催者挨拶

授賞理由及び受賞者の紹介

賞状、賞金目録、メダル贈呈

※受賞者代理：ジェイソン・R・クーバス在大阪・神戸米国総領事館
総領事

来賓祝辞(岸田文雄内閣総理大臣)

受賞者挨拶(ビデオメッセージ)

祝賀演奏



コスモス国際賞歴代受賞者

当協会の主事業である「コスモス国際賞」は、「自然と人間との共生」という理念の発展に貢献し、「地球生命学」とも呼ぶべき、地球的視点における生命相互の関係性、統合性の本質を解明しようとする研究活動や学術活動を顕彰するために設けられた国際的な顕彰です。

1993年(第1回) 平成5年
ギリアン・フランス 卿
Sir. Ghillean France



英国・王立キュー植物園園長

南米アマゾン地域を中心とする熱帯植物研究を主導し、地球全域の植生を統一データ化する地球植物誌計画を提唱した他、世界の植物学者とネットワークを組んで実現に尽力した。

1994年(第2回) 平成6年
ジャック・フランソワ・パロー
(物故)
Dr. Jacques Francois Barrau
(Deceased)



仏国・パリ国立自然史博物館教授

太平洋の鳥々の自然と人たちの暮らしについて民族生物学的な調査研究を行い、これを基に、人間と食糧をテーマに、全地球的な視点から、ユニークな考察を発表した。

1995年(第3回) 平成7年
吉良龍夫
(物故)
Dr. Tatuo Kira
(Deceased)



日本・大阪市立大学名誉教授

光合成による植物の有機物生産の定量的研究を基に、生態学の新分野となる生産生態学を確立。東南アジア地域の熱帯林生態系の研究で指導的な役割を務めた。

1996年(第4回) 平成8年
ジョージ・ビールズ・シャラー
Dr. George Beals Schaller



米国・野生生物保護協会科学部長

40年にわたり、世界各地でさまざまな野生動物の生態と行動を研究し、「マウンテンゴリラ・生態と行動」「ラストパンダ」など数多くの著書で全世界に野生動物の実態を知らせた。

1997年(第5回) 平成9年
リチャード・ドーキンス
Dr. Richard Dawkins



英国・オックスフォード大学教授

1976年に出版された著書「利己的な遺伝子」で、生物学の常識をくつがえす大胆な仮説を発表し、生物の進化について新しい見解を提示した。

1998年(第6回) 平成10年
ジャレド・メイスン・ダイヤモンド
Dr. Jared Mason Diamond



米国・カリフォルニア大学ロサンゼルス校教授

医学部で生理学を研究する一方、30年にわたりニューギニアの熱帯調査を行い、これらを基に、人類の歴史的な発展を再構成したユニークな考察を発表した。

1999年(第7回) 平成11年
呉 征鎰(ウー・チェン・イー)
(物故)
Dr. Wu Zheng-Yi
(Deceased)



中国・中国科学院昆明植物研究所教授・名誉所長

中国を拠点に東アジア地域の植物の調査研究に取り組み、中国全土の植物の種の多様性を網羅する「中国植物志」の編集を主導、刊行した。

2000年(第8回) 平成12年
デービッド・アッテンボロー卿
Sir David Attenborough



英国・映像プロデューサー

野生生物のドキュメント映像のパイオニアとして、約半世紀にわたって、地球上の野生の動植物の生の姿を、優れた映像で全世界に伝えた。

2001年(第9回) 平成13年
アン・ウィストン・スパーン
Prof. Anne Whiston Spirn



米国・マサチューセッツ工科大学教授

都市と自然は対立するものではなく、周辺の地域環境と調和し、その一部として存在する都市の構築が可能であるとし、都市が自然との調和をはかりながら発展する方策を示した。

2002年(第10回) 平成14年
チャールズ・ダーウィン研究所
The Charles Darwin Research Station



エクアドル

ガラパゴス諸島の陸上、海域両面にわたる生物と生態系の調査を行い、島の自然を守る直接活動のほか、島の住民への環境教育、島の現状を全世界に伝える出版など、多角的な活動を行った。

2003年(第11回) 平成15年
ピーター・ハミルトン・レーブン
Dr. Peter Hamilton Raven



米国・ミズーリ植物園園長
生物多様性の保全を先駆的に行い、地球的な視点で生命の問題を考え、学術と実践両面で自然と人間との共生に貢献した。

2004年(第12回) 平成16年
フーリャ・カラビアス・リジョ
Prof. Julia Carabias Lillo



メキシコ・メキシコ国立自治大学教授
途上国の立場から全地球的な環境問題を考え、フィールドワークとさまざまな学問分野の研究を統合したプログラムを実施し、異なる条件下での困難な課題に優れた成果を挙げた。

2005年(第13回) 平成17年
ダニエル・ポーリー
Dr. Daniel Pauly



カナダ・ブリティッシュ・コロンビア大学水産資源研究所長兼教授
漁業と海洋生態系の関連を包括的に研究。海洋生態系保全と水産資源の持続的利用を可能にする科学的モデル開発など、海洋生態系と資源研究の分野で優れた業績を収めた。

2006年(第14回) 平成18年
ラマン・スクマル
Dr. Raman Sukumar



インド・インド科学研究所生態学センター教授
ゾウと人間との生態関係や軋轢への対処をテーマとした研究から、生物多様性保護と自然環境の保全全般にわたる多くの提言を行い、かつ実行し、野生生物と人間との共存という分野での先駆的な取り組みを行った。

2007年(第15回) 平成19年
ジョージナ・メアリー・メイス
(物故)
Dr. Georgina Mary Mace
(Deceased)



英国・ロンドン大学自然環境調査会議個体群生物学研究センター所長兼教授
絶滅危惧種を特定・分類し科学的な基準を立案すること、および「レッドリスト」の作成において指導的役割を果たし、種の保全、生物多様性保全に貢献する取り組みを行なった。

2008年(第16回) 平成20年
ファン・ヴェン・ホン
Dr. Phan Nguyen Hong



ベトナム・ハノイ教育大学名誉教授
戦争や乱開発がマングローブの生態系に壊滅的な打撃を与えたベトナムで、博士はマングローブの科学的、包括的な調査・研究を行い、マングローブ林の再生に大きな成果をあげた。

2009(第17回) 平成21年
グレッチェン・カーラ・デイリー
Dr. Gretchen Cara Daily



米国・スタンフォード大学教授
生物多様性のもつ「生態系サービス」の価値を包括的に捉えて、「国連ミレニアム生態系評価」など国際的な取り組みに貢献するとともに、生態学・経済学を統合し、「自然資本プロジェクト」を実施する等大きな役割を果たした。

2010年(第18回) 平成22年
エステラ・ベルグレ・レオポルド
(物故)
Dr. Estella Bergere Leopold II
(Deceased)



米国・ワシントン大学生物学部名誉教授
花粉学者であり自然保護論者として、博士の父アルド・レオポルド氏(1887-1948)が提唱した「土地倫理」の思想を継承、追求すると共に、アメリカ各地においてこの考えを広げるなど、多大な功績を残した。

2011年(第19回) 平成23年
海洋生物センサス科学推進委員会
The Scientific Steering Committee of
the Census of Marine Life



海洋生物の多様性、分布、生息数についての過去から現在にわたる変化を調査・解析し、そのデータを海洋生物地理学情報システムという統合的データベースに集積することにより、海洋生物の将来を予測することを目指す壮大な国際プロジェクト「海洋生物センサス」を主導した。

2012年(第20回) 平成24年
エドワード・オズボーン・ウィルソン
(物故)
Dr. Edward Osborne Wilson
(Deceased)



米国・ハーバード大学名誉教授
アリの自然史および行動生物学の研究分野で卓越した研究業績をあげ、その科学的知見を活かして人間の起源等の研究に尽力した。

2013年(第21回) 平成25年

ロバート・トリート・ペイン
(物故)

Dr. Robert Treat Paine
(Deceased)



米国・ワシントン大学名誉教授

生物群集の安定的な維持に捕食者の存在が不可欠なことを、明快な野外実験によって示し、「キーストーン種」という概念を提唱したことにより、生物多様性への理解に大きな影響を与えた。

2014年(第22回) 平成26年

フィリップ・デスコラ

Dr. Philippe Descola



仏国・コレージュ・ド・フランス教授

南米アマゾンに住む先住民アチュアの自然観とその自然と関わる諸活動に焦点を当て、これらの綿密な調査から哲学的な思想へと論を進め、自然と文化を統合的に捉える「自然の人類学」を提唱した。

2015年(第23回) 平成27年

ヨハン・ロックストローム

Dr. Johan Rockström



スウェーデン・ストックホルム・レジリエンス・センター所長

人類が地球システムに与えている圧力が飽和状態に達した時に不可逆的で大きな変化が起こりうるとし、「プラネタリーバウンダリー」を把握することで、壊滅的な変化を回避でき、その限界がどこにあるかを知ることが重要であるということを示した。

2016年(第24回) 平成28年

岩槻 邦男

Dr. Kunio Iwatsuki



日本・東京大学名誉教授 兵庫県立人と自然の博物館名誉館長

地球上に存在する多様な生物の相互関係を統合的に解明する研究手法の構築により、シダ類をはじめとする植物系統分類学を発展させ、さらにアジアを中心とする生物多様性の保全に多大な貢献を果たした。

2017年(第25回) 平成29年

ジェーン・グドール

Dr. Jane Goodall



英国・ジェーン・グドール・インスティテュート創設者

長期的な視点に立った野生チンパンジーの研究を行い、さらにチンパンジーが住む森を保全するための植林活動、現地の住民向けの教育プロジェクト、世界中の若者のための環境教育プログラム「ルーツアンドシューツ」を行った。

2018年(第26回) 平成30年

オギュスタン・ベルク

Dr. Augustin Berque



仏国・フランス国立社会科学高等研究院教授

和辻哲郎の著作「風土」から大きな影響を受け、風土概念をさらに拡充、深化、発展させ、「風土学(mésologie)」と名づけられる新たな学問領域を切り拓き、自然にも主体性があるという「自然の主体性論」を提唱した。

2019年(第27回) 令和元年

スチュアート・L・ピム

Dr. Stuart L. Pimm



米国・デューク大学教授

地球上の生物の食物網の複雑さや種の絶滅速度等についての理論を提唱し、地球規模の生物多様性に関する政策などに大きな影響を与えると共に、生物保全活動を実践する団体を支援した。

2021年(第28回) 令和3年

ピーター・ベルウッド

Dr. Peter Bellwood



英国および豪・オーストラリア国立大学名誉教授

世界的な視野で農耕の拡散を研究し、考古学、言語学、人類生物学の学際的研究による「初期農耕拡散仮説」を提唱し、農耕の起源と初期農耕民の移動・拡散過程を明らかにした。

2022年(第29回) 令和4年

フェリシア・キーシング

Dr. Felicia Keesing



米国・バード大学教授

生物多様性と人獣共通感染症病原体との関係を、実践的な調査研究によって明らかにし、ポストコロナ時代における自然と人間とのあり方に科学的な示唆を与えた。

2020年は新型コロナウイルス感染症の影響によりコスモス国際賞の実施を中止した。

顕彰事業

委員会

コスモス国際賞委員会 令和6年3月31日現在(50音順)

- 委員長 山極 壽一 総合地球環境学研究所所長
- 副委員長 中西 友子 東京大学名誉教授
- 委員 秋道 智彌 山梨県立富士山世界遺産センター所長
- 委員 浅島 誠 帝京大学特任教授
- 委員 池内 了 総合研究大学院大学名誉教授
- 委員 白山 義久 京都大学名誉教授
- 委員 西澤 直子 石川県立大学学長
- 委員 林 良博 東京大学名誉教授
- 委員 横張 真 東京大学大学院工学系研究科教授
- 委員 鷲谷いづみ 東京大学名誉教授
- 委員 和田英太郎 京都大学名誉教授
- 顧問 岩槻 邦男 東京大学名誉教授
- 顧問 尾池 和夫 静岡県立大学理事長兼学長
- 顧問 岸本 忠三 大阪大学免疫学フロンティア研究センター特任教授
- 顧問 中村 桂子 JT生命誌研究館名誉館長

委員会

コスモス国際賞選考専門委員会 令和6年3月31日現在(50音順)

- 委員長 白山 義久 京都大学名誉教授
- 副委員長 池谷 和信 国立民族学博物館教授
- 委員 沖 大幹 東京大学大学院工学系研究科教授
- 委員 モンテ・カセム 国際教養大学理事長兼学長
- 委員 佐倉 統 東京大学大学院情報学環教授
- 委員 高村ゆかり 東京大学未来ビジョン研究センター教授
- 委員 辻 篤子 中部大学特任教授
- 委員 深町加津枝 京都大学地球環境学堂准教授
- 委員 湯本 貴和 京都大学名誉教授
- 委員 横山 潤 山形大学理学部教授

2. BIEコスモス賞

当協会の存在とコスモス国際賞の海外広報のため、BIE（博覧会国際事務局：本部パリ）と当該博覧会協会と3者で「BIEコスモス賞」を実施しています。

令和5年度は、次回の授賞が予定されている2025年日本国際博覧会での実施をBIEと調整しました。

3. 全国花のまちづくりコンクール

花の万博を契機に「花と緑の国づくり・まちづくり」をめざして農林水産省及び国土交通省が提唱する花のまちづくりコンクールの推進協議会に参画し、「コンクール」を実施しました。

第33回
(2023年)
全国花の
まちづくり
コンクール

主 催：花のまちづくりコンクール推進協議会
(当協会、(公財)日本花の会、(公財)都市緑化機構、(一財)日本花普及センター)
入賞/応募数：59点/878点
表彰式
開催日：令和5年10月31日(水)
場 所：法曹会館(東京都千代田区)

農林水産大臣賞



咲かそうひまわり(愛知県碧南市)



天浜線 人と時代をつなぐ 花のリレー・プロジェクト(静岡県浜松市)

文部科学大臣賞



黒部市立若栗小学校(富山県黒部市)

国土交通大臣賞



花てまりの会(和歌山県那智勝浦町)



太田 よしの(兵庫県香美町)

第29回
全国花の
まちづくり
浜松大会

主 催：全国花のまちづくり浜松大会実行委員会、花の
まちづくりコンクール推進協議会、浜松市
開 催 日：令和5年5月27日(土)・28日(日)
場 所：アクトシティ浜松中ホール(静岡県浜松市)



助成・協働事業

花博自然環境助成事業

花の万博の基本理念「自然と人間との共生」の継承発展・普及啓発につながる調査研究や活動並びに被災地復興を支援し、潤いのある豊かな社会の創造に寄与することを目的として、助成事業を実施しています。本事業は、平成16年度より一般公募助成として開始したもので、これまで470件余の団体を支援してきました。

助成対象は、従来同様、花の万博の基本理念の継承発展・普及啓発につながる調査や活動で、潤いのある豊かな社会の創造に寄与することを目的としています。

令和5年度助成事業

令和5年度は23件の事業に助成しました。

【調査研究】

● 団体名	● 事業名	● 団体所在地	● 事業の概要(申請時)
NPO法人生物多様性研究所あーすわーむ	浅間山の草原・森林における動植物モニタリング調査	長野県	浅間山麓では亜高山帯、偽高山帯に貴重な自然草原が存在する。しかしシカの採食圧や森林化、乾燥化等により、草原環境の維持が危ぶまれている。その草原の生物多様性の維持のために、生息する動植物のモニタリング調査を実施し、当該地の保全に向けての効果的な方法や対策について考察する。
一般財団法人沖縄美ら島財団	沖縄の伝統的景観木の病虫害防除に関する調査研究	沖縄県	観光産業が盛んな沖縄にとって、沖縄らしい景観の形成に重要な役割を果たす緑化木の健全な育成は重要である。本事業は、特に沖縄県内で近年問題となっている外来ヨコバイによるアカギの葉枯れや、約20年前から原因不明のフクギの黄化衰退木について調査研究を行い、伝統的文化や風土と結びついた景観の保全を目指す。
特定非営利活動法人オオタカ保護基金	栃木県那須野ヶ原のオオタカは減っているのか？	栃木県	種の保存法]の希少種から解除されたオオタカであるが、一方で個体数が減少しているという意見もある。栃木県那須野ヶ原において、2023年の繁殖状況を調査し、当地における過去20年間のモニタリング結果と比較して、オオタカの生息状況の変化を明らかにするとともにその要因を考察し、今後の保護の資料とする。
神奈川トンボ調査・保全ネットワーク	絶滅危惧トンボ類の生息状況および生息環境調査	神奈川県	絶滅危惧種の保全策を講じるうえで、生息状況や生息地の現状などの基礎情報は極めて重要である。しかし近年、地域研究者の高齢化により情報の収集が困難になっている。本研究では、絶滅危惧トンボ類の現存情報および減少要因などの現況を調査し、結果を環境省レッドリスト改訂および保全策構築のために提供する。
日台里山交流会議	日台里山イノベーションの研究	京都府	日本が発信した「里山イニシアティブ」は台湾の行政・大学で真摯に受け止められ、政策化している。各地域での実践をフィールドワークとワークショップで調査し、日本の同分野との比較や生物的多様性への貢献を研究する。お互いが学ぶべき点や里山活動のイノベーションを考察する。将来的には一般向けの書籍として出版する。

【活動・行催事】

● 団体名	● 事業名	● 団体所在地	● 事業の概要(申請時)
かたつむりミュージアム・ラセン館	かたつむりミュージアム・ラセン館の普及啓発活動	京都府	国内産陸産貝類種約800種の生体再現模型製作、及び海外産代表種の再現プロジェクトを実現させ、それらを社会に向けて広く発信し、生物多様性の意義を分かりやすく理解してもらう。
伊吹くらしのやくそう倶楽部	棚田・里山生態系の立役者、ポリネーターを守る！	滋賀県	ポリネーターは、植物と昆虫の深い関係を示すもので、生物多様性の保全に欠かせない。しかし、当地でもニホンミツバチ等のポリネーターが激減している。そこで、様々な花蜂を救うために産卵箱(Bee Hotel)の設置や蜜源植物を増やす活動を、ワークショップ等併せて行い、ポリネーターの重要性を普及する。
江南の藤保存会	緑と藤棚の自然環境保全・保護プロジェクト	埼玉県	保存会は江南の藤(ノダナガフジ)を保存・継承しかつ地域に根ざしたコミュニティづくり・環境保全・保護の促進を行う事を目的とする。熊谷市地球温暖化防止活動促進員として熊谷青年会議所と提携して藤棚の下が外気温5度～6度涼しくクールシェア先として6月～7月末まで一般開放しております。

福興浜団	菜の花迷路一般開放と菜の花畑整備	福島県	東日本大震災による津波で全て流された南相馬市原町区菅浜地区に菜の花畑を造成し、そこに迷路を作りGW期間中に一般開放する。菜の花迷路には親子連れからお年寄りまで、市内はもちろん県内外から多くの人に訪れてもらい、楽しみ、笑顔になってもらうとともに、津波被害を受けた地区の現在の様子を見て、知ってもらう。
特定非営利活動法人樹木研究会こうべ	木のお医者さんが伝える「樹木の生き方」	兵庫県	樹木医は、樹木の診断と樹勢回復、樹病の予防や後継樹の保護育成などに携わる専門家である。樹木医が「樹木の生き方」に関する知識や技能を環境教育プログラムに変換し、自然科学の普及に取り組む。
一般社団法人ソーシャルギルド	河内地域を中心とした、自然環境整備拠点どうしの連携	大阪府	大阪府河内長野市で継続している「耕作放棄地の再生活動」を、環境課題を知る契機として提供できるよう、拠点を整備するとともに、河内地域の環境活動団体のフィールドを活用した協働企画の実施を通じて、地域全体での新たな担い手の拡大につなげる。
一般社団法人日本樹木医会 沖縄県支部	令和5年度日本樹木医会沖縄県支部特別講演・研修会	沖縄県	沖縄県支部では、研修会を定期的に開催し、樹木医活動の普及および樹木医の交流を図っている。本事業は、特に未侵入の外来生物に関する講演会を一般市民も聴講できるように開催すること、治療や剪定技術に詳しい県外・海外有識者等との交流を図ることで、外来生物の早期発見・防除や県内樹木医の更なる技術向上に努める。
生駒山昆虫観察の会	親子ペアで楽しむ「昆虫観察会～森の生態を探る」	奈良県	親子ペアの参加者が、生物学者らと共に、森の生態、生き物の観察・採集を行ない、いのちの循環、生き物の生態、体のしくみ、住む場所などを研究、調査する。
ミツバチサミット実行委員会	ミツバチサミット2023	茨城県	ミツバチをはじめとする多くの昆虫が植物の送受粉を担っている。しかし近年、これらの送粉昆虫の減少とそれによる農作物や野生植物への影響が懸念されている。そこで一般市民、専門家などが集まる複合型イベントの開催を通じて、この問題を広く発信するとともに、送粉昆虫の保全と活用に向けた今後の展開を議論する。
オープン台地実行委員会	上町台地の斜面緑地の魅力創造・発信事業	大阪府	大阪市中心部に位置する上町台地の西側崖部には「斜面緑地」と呼ばれる広大な緑地帯が存在する。隣接する日本有数の寺町と一体となり、緑が少ないと言われる大阪市において貴重な緑の拠点を形成している。本事業はまちあるきやシンポジウム、マップ作成を通じて斜面緑地を広く周知し保全につなげるものである。
特定非営利活動法人日本高山植物保護協会	大学生による三つ峠山アツモリソウ集団の保全活動	山梨県	地球の温暖化、シカの食害、さらには盗掘など、高山植物が置かれている現状を、次世代を担う若者、特に登山や植物に関心のある大学生に理解してもらい、その保護活動の一環として登山道の整備や植生の回復作業を実際に体験できる機会を提供することで、高山植物の保護活動の担い手を育成するとともに普及活動につなげる。
特定非営利活動法人勿来まちづくりサポートセンター	花が育む高校生と地域との交流支援事業	福島県	「交流」をキーワードに、春咲き球根のプランターの寄せ植えと街中配布を通して、高校生と地域住民との顔の見える関係構築と相互の触れ合いを深める事業。
特定非営利活動法人里山再生と食の安全を考える会	里山から花とみどりあふれる地域づくり	茨城県	景観保全のため花とみどりあふれる地域づくりを目指し、植栽・栽培・収穫体験を行い、収穫した野菜等を使って、食育を行いながら、食育の一環として注目されている野菜等・ハーブを栽培します。復興の一環として里山整備を行います。
特定非営利活動法人LEAF26	「橋の路」を媒体としたESD復興支援in野蒜	宮城県	奥松島地域の自生種ヤブツバキを育苗し植栽を進める事業を展開している。復興とSDGを理解していただく、ESDプログラムで子ども達と地域住民参加であるが、コロナの関係で当初事業の進め方を、現地での苗や花壇の紹介交流から推進させていく。
源氏藤袴会	京都自生種の藤袴を保全育成し環境保全活動を推進する	京都府	令和2年から令和4年貴協会の助成を受け絶滅寸前種の京都藤袴を保全育成してきました。成果は大きく令和2年度京都市から京の生きもの・文化協働再生プロジェクトの第24号認定 令和3年度は京都環境賞 奨励賞で環境と調和した持続可能な社会への貢献が認知された。
特定非営利活動法人パワーアップ支援室	心を支え風化を防ぐ花の防潮提醒成プロジェクト(完)	岩手県	岩手県大船渡市三陸町越喜来地区において、東日本大震災の風化の歯止め、人的交流機会の増加による心の復興の促進等を目指して令和3年度より実施している事業の最終章として、多年草や季節ごとの花や緑を取り入れることで、四季を通して花や緑に触れることができる心の拠り所の創造を行います。
特定非営利活動法人日本ピオトープ協会	設立30周年記念ピオトープフォーラムinしずおか	東京都	1. ピオトープ功労者表彰(協会関係・地域活動家) 2. 第15回ピオトープ顕彰表彰 3. 記念講演・基調講演 常葉大学名誉教授 山田辰美先生・日本 在来ミツバチの会理事 藤原愛弓先生 4. パネルディスカッション

助成・協働
事業

<p>倉淵ヤマアジサイの会</p>	<p>休耕地を花と緑で埋め憩いの場所にする活動</p>	<p>群馬県</p>	<p>高崎市内でも下大島町内は田園と住宅が混在して、耕作放棄地があると周辺の住民に迷惑となっています。そのため、休耕地の所有者は他の人をお願いして定期的にトラクターで耕うんしています。その土地を借りて、皆さんで集える花畑をつくり、定期的集い楽しめる花畑にしたいと思います。</p>
-------------------	-----------------------------	------------	--



かたつむりミュージアムラセン館



ミツバチサミット実行委員会



特定非営利活動法人オオタカ保護基金



特定非営利活動法人里山再生と食の安全を考える会



生駒山昆虫観察の会



福興浜団

委員会

助成事業審査委員会委員 令和6年3月現在(50首順)

- 委員長 林 孝洋 元近畿大学農学部農業生産科学科教授
- 副委員長 橋本佳延 兵庫県立人と自然の博物館主任研究員
- 委員 梶木典子 神戸女子大学家政学部家政学科教授
- 委員 香坂玲 東京大学大学院農学生命科学研究科教授
- 委員 武田重昭 大阪公立大学大学院 農学研究科准教授
- 委員 永田 萌 イラストレーター・絵本作家

令和6年度
助成対象の決定

令和6年度の助成事業を決定しました。

【公募】公募期間：令和5年8月1日(火)～9月8日(金)

【審査】審査期間：令和5年10月～令和6年2月

【決定】助成事業審査会の審査結果として、対象26件が理事長に答申され決定されました。また、この内容は第120回理事会にて報告しました。

普及啓発・国際交流事業

1. 次世代育成事業

花の万博の理念継承発展のため、講師派遣型セミナーを実施しました。

小学校講師派遣 協会に関係する多くの科学者や知識人を小学校に派遣し、自然との関わり、自然やいのちの大切さを学習し「自然と人間との共生」をいう花の万博の理念の継承・発展に資することを目的としています。令和5年度は令和4年度に引き続き、対面授業とオンライン授業の選択制とし、現地授業14校、オンライン授業1校の計15校で授業を行いました。

アンケート(一部)

- ・児童にとって、新しい学びがたくさんありました。授業ではなかなか触れないことも教えてくださったので大変良い機会になりました。
- ・1時間ではもったいないほどの児童が興味を持てる内容の授業をして頂きました。次回も機会があればぜひお願いしたいと思います。ありがとうございました。
- ・動物の命について、実際に動物園の園長さんとして働いておられた方にお話を聞き、質問にもなんでも答えて下さり、とても充実した時間でした。専門的なこともご存じである一方で児童たちにわかりやすく動物と自然、人間との関係について考えさせられるような内容でした。今回は3年生でお願いしましたが、5、6年生の理科ともつながることが多く、私自身の知識としても得るものが多かったです。お忙しい中、大変ありがとうございました。
- ・講師の先生の話聞いていくにしたがって、児童たちがだんだん興味をもって話に入り込んでいる様子でした。ありがとうございました。
- ・食物連鎖について児童たちの興味・関心を深めることができました。ありがとうございました。

● 実施日	● 実施校および参加者	● 授業形態	● テーマ	● 講師
令和5年6月15日	富田林市立向陽台小学校 3年生 62名	対面	昆虫の生態・川の環境	谷 幸三(一般社団法人淡水生物研究所理事)
6月19日	八尾市立西山本小学校 5年生 43名	対面	カタツムリの不思議な世界	河野 甲(かたつむりミュージアムラセン館代表)
6月21日	大阪市立茨田北小学校 3年生 108名	対面	動物の命の不思議	長瀬 健二郎(天王寺動物園元園長)
6月23日	大阪市立東井高野小学校 3年生 43名	対面	カタツムリの不思議な世界	河野 甲
6月27日	寝屋川市立楠根小学校 4年生 31名	対面	植物のかたちとはたらき	渋谷 俊夫(大阪公立大学教授)
7月13日	大阪市立茨田東小学校 4年生 42名	対面	昆虫の生態・川の環境	谷 幸三
7月18日	摂津市立烏飼西小学校 4年生 71名	対面	動物の命の不思議	長瀬 健二郎
7月26日	四天王寺小学校 3年生 41名	対面	砂漠の水がめスイカ	池谷 和信(国立民族学博物館教授)
9月1日	高槻市立川西小学校 5年生 40名	対面	植物のかたちとはたらき	渋谷 俊夫
9月4日	吹田市立山田第五小学校 3年生 30名	対面	動物の命の不思議	長瀬 健二郎
9月14日	大阪市立井高野小学校 3年生 51名	対面	昆虫の生態・川の環境	谷 幸三
9月21日	神戸市立多井畑小学校 4年生 43名	対面	昆虫の生態・川の環境	谷 幸三
9月26日	大阪市立晴明丘南小学校 3年生 46名	対面	カタツムリの不思議な世界	河野 甲
11月22日	大阪市立住吉川小学校 6年生 96名	オンライン	生き物と食べ物について	佐藤 洋一郎(ふじのくに地球環境史ミュージアム館長)
12月1日	大阪市立義務教育学校生野未来学園 4年生 107名	対面	植物のかたちとはたらき	渋谷 俊夫



普及啓発・ 国際交流事業

YouTube 花博チャンネル 青少年向け環境授業として、小学校講師派遣の講師陣を含む方々の授業動画を(P21記載) YouTube花博チャンネルに掲載しています。

受賞者漫画読本 歴代受賞者紹介読本を刊行することによって、若年層や普段科学や環境問題に関心の少ない層にもコスモス国際賞及び受賞者の業績について学習する機会の拡充を図り、「自然と人間との共生」という理念のいっそうの浸透を図ることを目的としています。
令和5年度はギリアン・フランス卿(1993年コスモス国際賞受賞者)、とピーター・レーブン博士(2013年コスモス国際賞受賞者)から制作許諾を得、資料の収集を行い、委託先の京都国際マンガミュージアムとマンガシナリオ、ネームの作成を進めました。

全国高校生「地域の自然」甲子園 (通称: ネイチャー甲子園) ネイチャー甲子園は、全国の高校生が身近な自然や生きもの、それに関わりあって生きる人々を、動画撮影や調査によって紹介するコンテストで、自然や文化への関心、郷土愛を育むことを目的とするものです。初回に関わらず、多くのご応募を得、次のとおり決勝大会等を実施しました。

1. 事業期間：
 - エントリー期間：令和5年4月10日(月)～令和5年12月31日(日)
 - 決勝大会：令和6年2月11日(日)花博記念ホール(大阪市鶴見区)
2. 両部門の応募数および上位入賞校
 - (1) 動画クリエイティブ部門 応募87件
 - ・ 最優秀賞 群馬県立藤岡北高等学校「ガーデニング部」(群馬県藤岡市)
 - ・ 優秀賞 大阪府立港南造形高等学校「動物研究同好会」(大阪市住之江区)
京都文教高等学校「スプリント」(京都市左京区)
 - (2) 生きもの調査部門 応募89件
 - ・ 動物の部
 - 1位：近畿大学附属高等学校「近高生物班」(大阪府東大阪市)
 - 2位：近畿大学附属豊岡高等学校「コウノトリ」(兵庫県豊岡市)
 - 3位：愛媛県立三崎高等学校「みさこう」(愛媛県西宇和郡)
 - ・ 植物の部
 - 1位：大阪府立枚方高等学校「生物飼育部」(大阪府枚方市)
 - 2位：岡山県立倉敷古城池高等学校「古城池の子」(岡山県倉敷市)
 - 3位：広島工業大学高等学校(「hkdkSA」)(広島市西区)



2. 都市緑化推進運動等への協力事業

都市緑化推進運動協力会に参画し、市民の都市緑化意識の高揚を目的に開催する「春季における都市緑化推進運動」(令和5年4月1日～6月30日)、「都市緑化月間」(令和5年10月1日～10月31日)、中に開催された「都市緑化キャンペーン2023」など、都市における緑の保全・創出や都市公園、街路樹の整備等を推進し、緑豊かな美しいまちづくりの展開に支援しました。また、令和5年10月27日(金)に東京都千代田区のイノホールで開催された「ひろげよう 育てよう みどりの都市」全国大会開催について、協力を行いました。



3. 普及啓発事業

花の万博が開催された大阪において、理念の継承発展・普及啓発に関する事業を地元公共団体及び関連団体と協働し、実施しました。

おおさか大阪都市緑化フェア

花と緑あふれる豊かなまちづくりを進め、都市緑化に関する府民意識の高揚と知識の普及を図ることを目的に開催されている本フェアに参画しました。

開催日：令和5年11月5日(日)
場 所：大阪府営浜寺公園・大阪府営住吉公園
来場者：約24,000名
主 催：当協会、大阪府、(一財)大阪府公園協会



都市公園法制定150周年記念フォーラム

明治6年の太政官布達から150周年を迎えたことを記念し、関西の3園「円山公園(京都市)」、「大阪府営住吉公園(大阪府)」、「奈良県立奈良公園(奈良市)」の設置経緯やこれまでを振り返ると共に、将来に向けての公園のあり方を議論することを目的に、「都市公園制度制定150周年記念フォーラム」を開催しました。

日 時：令和5年8月18日(金)午後1時～5時
場 所：花博記念ホール(大阪市鶴見区)
参加者：270名(リアル140名、WEB130名)
主 催：記念フォーラム実行委員会(当協会他、9団体が参画)
次 第：基調報告「公園緑地行政の動向について」
国土交通省都市局公園緑地・景観課長 伊藤康行
事例報告(2)「住吉公園歴史探訪」
都市公園住吉公園指定管理共同体・(株)美交工業専務取締役 福田久美子
事例報告(1)「四時遊覧の地 円山公園」
京都市建設局みどり政策推進室 近藤正人
基調講演「近代公園制度の胎動 -公園に関する『太政官第十六号』をめぐって-」
名城大学名誉教授 丸山 宏
事例報告(4)「保存と活用のはざままで -奈良公園の成り立ちと今後-」
奈良県奈良公園事務所整備課長 奥田 篤
講演「関西の近代造園 -その担い手と空間的特徴、将来に向けて-」
東京農業大学教授 粟野 隆



2023年度事業実績

普及啓発・ 国際交流事業

都市公園 制度制定 150周年 記念誌

都市公園制度制定150年の節目を記念し、関西の都市公園である円山公園(京都市)、大阪府営住吉公園(大阪府)、大阪府営浜寺公園(大阪府)、東遊園地(神戸市)、奈良県立奈良公園(奈良県)を紹介する記念誌「関西5園の歴史と未来」を作成しました。本誌は、2,000部刊行し、関連のシンポジウムや催事、各園で配付しました。



みどりの まちづくり賞 (大阪ランドスケープ賞)

緑によるまちづくりや、市民の花やみどりに関する知識、技術力の向上を図ることを目的とした「第12回みどりのまちづくり賞」に参画し、花博記念協会会長賞等を授与しました。

主催：当協会、大阪府、(一社)ランドスケープコンサルタンツ協会関西支部

募集期間：令和5年5月17日から7月19日

入賞/応募数：8点/32点

表彰式・講評会

日時：令和5年12月13日(水)午後2時～5時

場所：花博記念ホール(大阪市鶴見区)

来場者：約100名



はならんまん 2023

大阪市民の花や緑のまちづくりへの関心を高め、花と緑を育てる伝統や文化への理解を促すとともに、花緑関連業界の交流と活性化を目的に開催された「はならんまん2023」に参画しました。

開催日：令和5年11月3日(金・祝)～4日(土)

場所：花博記念公園鶴見緑地(大阪市鶴見区)

来場者：約40,000名

主催：当協会、大阪市



万博の桜 2025

2025年日本国際博覧会への期待感や機運を高め、関西の緑化環境の向上をめざす、募金による2025本の桜の植樹事業の実行委員会事務局として、引き続き寄附金の収納や事業の広報を行いました。広報として、大阪府内の関係自治体等にチラシを配布するほか、ザ・ガーデンオリエンタル・大阪(旧大阪市公館)にて3月25日(月)に感謝状贈呈式、植樹式を開催しました。また、本事業を令和6年度も継続して行えるよう大阪国税局との調整協議も行いました。



牧野富太郎 シンポジウム

令和5年春よりNHK連続テレビ小説にて植物学者牧野富太郎をモデルにした「らんまん」が放映されたことを契機に、(公社)日本植物園協会と共催にてシンポジウムを開催しました。これにより植物の大切さはもとより、魅力や楽しさをアピールしました。

日 時：令和5年7月30日(日) 午後1時～3時30分

場 所：日比谷図書文化館大ホール(東京都千代田区)

参加者：200名

次 第：ドラマ「らんまん」に登場する植物のおもしろい話
田中伸幸(国立科学博物館植物研究部・牧野富太郎植物採集行動録編者)
邑田 仁(東京大学名誉教授・元小石川植物園園長)
田中純子(牧野記念庭園学芸員)



牧野富太郎 スタンプラリー

植物の魅力や大切さを再確認することを目的に、「咲くやこの花館」「大阪市立長居植物園」「大阪公立大学附属植物園」と連携し、スタンプラリー「牧野博士ゆかりの植物を各植物園を巡りながら探してみよう！」を実施しました。
期間：令和5年4月20日(木)～6月30日(金)



2023年度事業実績

普及啓発・ 国際交流事業

第2回
自然と人間との
共生フォーラム
～いきものの
素晴らしさを
感じ、伝え、
活動する～

地球規模での気候変動や自然環境の悪化、生物多様性の減少など、人類への脅威となる喫緊の課題は増大しています。真の「自然と人間との共生」の実現、市民への普及啓発にむけて、使命を同じくする3団体が連携し、「生物多様性」をテーマに本事業を実施しました。

日 時：令和6年3月9日(水)午後2時～4時
※オンライン配信(Zoomウェビナー)により実施
主 催：当協会、(公社)日本動物園水族館協会、(公社)日本植物園協会
参加者：事前登録者230名、参加者120名
次 第：開会挨拶 村田浩一(公社)日本動物園水族館協会会長
基調講演
「いきものと共に歩む動物園水族館」
中村雅之((公社)日本動物園水族館協会副会長、マリンワールド海の中道館長)
プレゼンテーション
「アマミトゲネズミ～域外保全の取り組み～」
古根村幸恵(宮崎市フェニックス自然動物園)
「どっこい生きてる、里山・里浜のラン」
小幡 晃(東京都神代植物公園元園長、東京都建設局元動物園整備担当課長)
「カタツムリの多様性と環境との関わり」
河野 甲(かたつむりミュージアムラセン館代表)
パネルディスカッション
パネリスト
上記講演者1名+プレゼンテーション発表者3名
ファシリテーター
村井良子(ミュージアムコンサルタント)



第18回
日中韓国際
ランドスケープ
専門家会議・
2023年度
日本造園学会
関西支部大会

「アジアから発信する次世代のランドスケープ―伝統と革新」というテーマのもと、専門家会議と学会支部大会の合同開催により実施された本催事について、共催として参画しました。

開催期間：令和5年11月10日(金)10時～11月12日(日)午後6時
開催方式：ハイブリッド
開催場所：京都市内および周辺各所、京都大学北部総合教育研究棟 他
参加者数：約170名(シンポジウム11月11日開催)
主催：(公社)日本造園学会、中国風景園林学会、韓国造景学会
共催：当協会
後援：国土交通省、環境省、京都市
協賛：(一社)日本造園建設業協会、(一財)公園財団、(公財)都市緑化機構、(一社)ランドスケープコンサルタンツ協会、(一社)ランドスケープコンサルタンツ協会関西支部、阪神造園建設業協同組合



令和6年
能登半島地震
復興支援
募金活動

令和6年1月1日に発生した能登半島地震の復興支援のため、(一社)フラワーサイエティと協働により、令和6年2月25日(日)に鶴見緑地公園内で募金活動を行いました。寄せられた募金115,710円は全額を石川県に寄附しました。

4. その他の普及啓発

花の万博の理念の普及・啓発のため、各事業の広報等を実施しました。また、各種団体が実施する行催事等に協賛、後援等を行いました。

後援等一覧

● 催事名(開催時期)	● 開催場所	● 主催	● 名義等
第20回2023周防町通り「はなまつり」 (R5.5.1～5.31)	周防町通り(堺筋～御堂筋間)と大阪 市立南小学校(大阪市中央区)	ヨーロッパ村周防町通り商店 会	後援
令和5年度大阪府立花の文化園「幼児・小中 学生花の絵画展」(R6.1.5～2.4)	大阪府立花の文化園 イベントホール(大阪府河内長野市)	大阪府、大阪府立花の文化園	後援 会長賞
水都おおさか森林(もり)の市2023 (R5.10.22)	近畿中国森林管理局・毛馬桜之宮公 園周辺(大阪市北区)	水都おおさか森林づくり・木 づかい実行委員会	後援
緑の講演会「小島佐一の心得の継承」 (R5.7.29)	京都経済センター6F(京都市下京 区)WEB開催	一般財団法人日本造園修景協 会京都府支部	後援
第78回日本おもと名品展 (R5.11.25～11.26)	上野グリーンクラブ(東京都台東区)	日本おもと協会	後援 会長賞
令和5年度「都市緑化月間」 (R5.10.1～10.31)	全国	国土交通省、都道府県、市町 村	協賛
令和5年度第43回伝統庭技研修会 (R5.11.30～12.1)	梅小路公園緑の館(京都市下京 区)	一般財団法人日本造園修景協 会	後援
小品盆栽フェア第32回春雅展 (R6.3.22～3.24)	花博記念公園鶴見緑地内 ハナミズ キホール(大阪市鶴見区)	公益社団法人全日本小品盆栽 協会	後援 会長賞
「第56回春のハンキングバスケット展」 (R6.4.9～4.21)	咲くやこの花館 プチイングリッ シュガーデン(大阪鶴見区)	咲くやこの花館	後援 会長賞
私のランドスケープ(R6.2.10)	京都経済センター6-F(京都市下京 区)WEB開催	一般財団法人日本造園修景協 会京都府支部	後援



令和5年度大阪府立花の文化園「幼児・小中
学生花の絵画展」



第78回日本おもと名品展



水都おおさか森林の市2023

ホームページ等 の運営・管理

各事業の理解促進・普及を図るためホームページやSNSに事前告知や事業報告等を随時掲載しました。

第1回全国高校生「地域の自然」甲子園(ネイチャー甲子園)

第2回自然と人間との共生フォーラム

YouTube花博チャンネル

【青少年向け環境授業】

河野 甲「カタツムリってどんな生き物？」

佐藤洋一郎「米・イネ・田んぼどれだけ知ってる？」

長瀬健二郎「動物の命の不思議」

【第1回全国高校生「地域の自然」甲子園(通称：ネイチャー甲子園)】

・動画クリエイト部門入賞作品

・決勝大会の様子



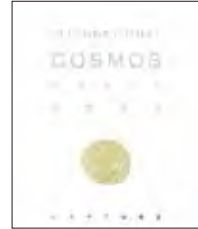
2023年度事業実績

普及啓発・国際交流事業

コスモス国際賞の広報

2023年(第30回)受賞者についての業績や授賞理由などをまとめたパンフレット(900部)、およびパンフレットの内容に加え関連行事の内容をまとめた報告書を作製(600部)し関係者に配付しました。

また、コスモス国際賞受賞者の研究、業績をより幅広い世代に普及するため、昨年度製作した2006年コスモス国際賞受賞者ラマン・スクマール博士を紹介する漫画を次世代育成事業やコスモス国際賞行催事で配付しました。



©山下 茜

情報誌の刊行

「自然と人間との共生」に関わる話題を発信する協会情報誌『KOSMOS』(変形A5版24頁2,000部)の12号、13号を刊行しました。両号は、生きていく上で必要不可欠である「衣・食・住」のうち「衣・食」をテーマとし、「自然科学」「人文・社会科学」からの視点による、コスモス国際賞受賞者や協会関係学者等の対談、コラムを掲載しました。



ノベルティ

中期計画の広報戦略に基づく、協会名の浸透とブランディングを目的に、新たなノベルティや封筒を製作しました。



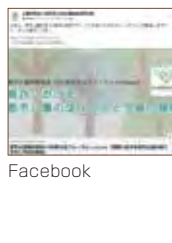
情報の提供

今後開催が計画されている博覧会や各種イベント等の主催者、花の万博紹介媒体に対し、情報、写真の提供を行いました。

海外・国・地方自治体等	10件
企業・個人	5件

その他広報

各事業の周知等のため、印刷物を作成、配付及びホームページやSNSに掲載しました。



Facebook

X



普及啓発・ 国際交流事業

5. 国際交流事業

国際園芸博 出展協力

令和5年10月2日から令和6年3月28日、カタール・ドーハで開催された「2023年ドーハ国際園芸博覧会」での日本国政府出展に協力しました。
また、当協会は、12月19日から12月31日に屋内ブースにてフラワーアレンジメントの出展を行うと共に、参加型のパズルゲーム(日本庭園パズル)を実施しました。



受賞者 フォローアップ

受賞者の研究業績を広く浸透させるため、2021年コスモス国際賞受賞者ピーター・ベルウッド博士の著書『THE FIVE MILION YEAR ODYSSEY』の邦訳出版を企画し、出版協力(出版社：青土社)を行いました。
なお、邦訳本「500万年のオデッセイー人類の大拡散物語ー」は、協会関係者に配付しました。



ウクライナ フラワー プレゼント

ウクライナ学生支援会のご協力のもと、ウクライナの戦禍を逃れ日本へ避難・留学されてきた学生を対象に「花とみどりのギフト券」を贈る本事業は、ウクライナ独立記念日とクリスマスにあわせ、次のとおり行いました。

- ・ウクライナ独立記念日(28校、80名を対象、1人当たり4千円のギフト券)
- ・クリスマス(28校、78名を対象、1人当たり4千円のギフト券)

調査研究・ 資料収集事業

共生ツアー in 吉野

奈良県吉野町の林業をテーマに、自然と結びついた生業、文化、景観等の成り立ちについて、現地を訪問するエクスカージョンを通じて、体験、学習するツアーを実施しました。

日 時：令和5年8月5日(土)午前9時～午後5時

場 所：奈良県吉野町

参加者：23名

講 師：中井章太(7代目山守、中神木材代表)
石橋輝一(吉野中央木材(株)専務取締役)

行 程：山守ツアー(樹木皮剥ぎ体験、ロープワーク体験)、製材所視察、吉野杉の家視察



SDGs冊子

企業メセナやSDGsに注力する企業に対し、協会事業への連携協働を促進するためのパンフレットを作成しました。(1,000部)



組織運営

理事会 令和5年度開催実績

	●開催日	●場 所	●議 題
第117回理事会	令和5年 6月14日(水)	ステーションコンファ レンス東京(東京都千代 田区)	令和4年度事業報告及び収支決算について 定時評議員会の招集について 評議員会に提出する評議員候補者(案)について 評議員会に提出する理事候補者(案)について 顧問、参与の選任について
第118回理事会 (決議の省略)	令和5年 6月29日(木)	——	会長(代表理事)、理事長(代表理事)、専務理事(業務執行 理事)の選任について
第119回理事会	令和5年 7月12日(水)	ステーションコンファ レンス東京(東京都千代 田区)	2023年(第30回)コスモス国際賞受賞者の決定について
第120回理事会	令和6年 3月19日(火)	ステーションコンファ レンス東京(東京都千代 田区)	特定資産の取崩しについて 令和6年度資産運用方針書について 令和6年度事業計画及び収支予算について 特定資産の保有について 特定費用準備資金の保有について コスモス国際賞委員会委員の選任について 助成事業審査委員会委員の選任について 役員賠償責任保険の加入及び法人の保険料負担について 臨時評議員会の招集について

評議員会 令和5年度開催実績

	●開催日	●場 所	●議 題
第64回評議員会	令和5年 6月29日(木)	ハービスPLAZA (大阪市北区)	令和4年度事業報告及び収支決算書類の承認について 評議員の選任について 理事の選任について
第65回評議員会 (決議の省略)	令和6年 3月31日(日)	——	特定資産の取崩しについて

アドバイザリー会議 中期計画の検証のため、有識者による第5回アドバイザリー会議を開催しました。開催の経緯は、次のとおり。

日 時：令和5年7月20日(木) 午後2時～4時

場 所：ホテルグランヴィア京都

アドバイザリーメンバー：池田 泰子(嵯峨美術大学教授)

後藤 祐一((株)日商社代表取締役社長兼CEO)

田中 充((公財)古都飛鳥保存財団常務理事)

湯本 貴和(京都大学名誉教授)

令和5年度決算

貸借対照表 令和6年3月31日現在

単位:円

科 目	当年度	科 目	当年度
I 資産の部		II 負債の部	
1.流動資産		1.流動負債	
現金預金	104,928,361	未払金	14,527,465
未収収益	78,924,351	預り金	1,483,303
流動資産合計	183,852,712	賞与引当金	2,757,323
2.固定資産		流動負債合計	18,768,091
(1)基本財産		2.固定負債	
基本財産定期預金	860,000,000	退職給付引当金	18,879,700
基本財産投資有価証券	29,400,000	固定負債合計	18,879,700
基本財産普通預金	600,000	負債合計	37,647,791
基本財産合計	890,000,000	III 正味財産の部	
(2)特定資産		1.指定正味財産	
記念基金	9,791,696,496	寄付金	10,000,000,000
退職給付引当資産	18,879,700	基本財産運用益	90,000,000
国際園芸博覧会出展事業積立資産	20,000,000	特定資産運用益	800,000,000
法人運営安定化資産	10,000,000	特定資産評価差額金等	△208,303,504
大阪・関西万博協力事業積立資産	20,000,000	指定正味財産合計	10,681,696,496
特定資産合計	9,860,576,196	(うち基本財産への充当額)	(890,000,000)
(3)その他固定資産		(うち特定資産への充当額)	(9,791,696,496)
什器備品	8	2.一般正味財産	215,084,629
その他固定資産合計	8	(うち基本財産への充当額)	(0)
固定資産合計	10,750,576,204	(うち特定資産への充当額)	(50,000,000)
資産合計	10,934,428,916	正味財産合計	10,896,781,125
		負債及び正味財産合計	10,934,428,916

正味財産増減計算書 令和5年4月1日から令和6年3月31日まで

単位:円

科 目	当年度	科 目	当年度
I 一般正味財産増減の部		職員厚生費	155,395
1. 経常増減の部		会議費	238,322
(1) 経常収益		旅費交通費	1,571,750
基本財産運用益	4,245,497	通信運搬費	293,487
基本財産受取利息	4,245,497	消耗什器備品費	27,126
特定資産運用益	240,912,205	消耗品費	464,059
記念基金受取利息	240,912,205	光熱水料費	1,574,021
受取寄付金	3,000,000	役務費	9,157
受取寄付金	3,000,000	委託費	2,480,356
経常収益計	248,157,702	賃借料	1,467,436
(2) 経常費用		使用料	554,285
事業費	203,044,693	保険料	91,488
役員報酬	8,564,584	諸謝金	125,700
給与手当	34,743,096	租税公課	131,568
法定福利費	6,033,554	支払負担金・会費	458,505
退職給付費用	1,726,362	支払手数料	202,696
賃金	3,233,864	雑費	4,391
職員厚生費	168,749	経常費用計	255,697,516
会議費	2,396,309	当期経常増減額	△7,539,814
旅費交通費	9,293,626	2. 経常外増減の部	
通信運搬費	3,437,853	(1) 経常外収益	
広告費	40,302	経常外収益計	0
消耗什器備品費	152,393	(2) 経常外費用	
消耗品費	2,963,331	経常外費用計	0
印刷製本費	1,670,864	当期経常外増減額	0
光熱水料費	3,672,715	当期一般正味財産増減額	△7,539,814
役務費	21,368	一般正味財産期首残高	222,624,443
委託費	46,494,711	一般正味財産期末残高	215,084,629
賃借料	3,537,184	II 指定正味財産増減の部	
使用料	2,918,925	受取寄付金	3,000,000
保険料	213,472	受取寄付金	3,000,000
諸謝金	8,607,956	基本財産運用益	4,245,497
租税公課	360,292	基本財産受取利息	4,245,497
支払負担金・会費	12,237,832	特定資産運用益	240,912,205
支払助成金	9,430,439	記念基金受取利息	240,912,205
支払手数料	568,558	特定資産評価損益等	315,861,456
顕彰賞金	40,110,000	記念基金投資有価証券評価損益等	315,861,456
雑費	446,354	一般正味財産への振替	△248,157,702
管理費	52,652,823	一般正味財産への振替	△248,157,702
役員報酬	3,670,536	当期指定正味財産増減額	315,861,456
給与手当	31,406,182	指定正味財産期首残高	10,365,835,040
法定福利費	6,136,625	指定正味財産期末残高	10,681,696,496
退職給付費用	1,589,738	III 正味財産期末残高	10,896,781,125

財団の概要(令和6年3月31日現在)

名称	公益財団法人 国際花と緑の博覧会記念協会 The Commemorative Foundation for the International Garden and Greenery Exposition,Osaka,Japan, 1990
設立趣旨	1990年に開催された国際花と緑の博覧会の基本理念を永く継承、発展させるため、国際花と緑の博覧会記念基金を設け、自然と人間との共生に関する諸事業を行い、もって潤いのある豊かな社会の創造に寄与しようとするものである。
設立年月日	1991年(平成3年)11月1日
公益法人移行日	2013年(平成25年)4月1日
所在地	〒538-0036 大阪市鶴見区緑地公園2番136号

評議員 令和6年3月31日現在(50音順)

評議員	小栗邦夫 (公財)日本特産農作物種苗協会理事長
評議員	金田章裕 (大)京都大学名誉教授
評議員	佐藤友美子 (学)追手門学院大学地域創造学部教授
評議員	高橋徹 大阪市副市長
評議員	竹歳誠 元国土交通事務次官
評議員	鳥井信吾 大阪商工会議所会頭
評議員	土井元章 (大)京都大学名誉教授
評議員	羽田光一 (公社)日本家庭園芸普及協会顧問
評議員	林理恵 (特)日本放送協会専務理事・大阪放送局長
評議員	正木啓子 (公社)日本都市計画学会関西支部顧問
評議員	増田昇 (大)大阪府立大学名誉教授
評議員	松下正幸 (公財)松下幸之助記念志財団理事長
評議員	森岡武一 大阪府副知事

役員 令和6年3月31日現在(50音順)

会長	御手洗富士夫 (一社)日本経済団体連合会名誉会長
理事長	角和夫 阪急阪神ホールディングス(株)代表取締役会長グループCEO
専務理事	片山博昭 常勤
理事	柴田道夫 (大)東京大学名誉教授
理事	武内和彦 (公財)地球環境戦略研究機関理事長
理事	本間和枝 (公財)宇治市公園公社顧問
理事	森本幸裕 (大)京都大学名誉教授
理事	和田新也 (一社)日本造園建設業協会会長
監事	北山諒一 公認会計士
監事	崎元利樹 (公財)関西-大阪21世紀協会理事長

顧問 令和6年3月31日現在(50音順)

顧問	今井敬 (一社)日本経済団体連合会名誉会長
顧問	中川和雄 大阪日韓親善協会会長
顧問	牧野徹 アイング(株)最高顧問
顧問	三井康壽 政策研究大学院大学特別講師

参与 令和6年3月31日現在(50音順)

参与	青木保之 (学)東洋女子学園理事
参与	佐々木正峰 (独)国立科学博物館顧問
参与	須磨佳津江 キャスター・ジャーナリスト
参与	中村桂子 JT生命誌研究館名誉館長
参与	畑中孝晴 (一社)プリザーブドフラワー全国協議会代表理事
参与	波多野敬雄 (学)学習院名誉院長
参与	ルイ・サトウ 在仏建築家

協会事務局 (TEL:06-6915-4500、FAX:06-6915-4524)

〈担当業務〉

- ◆総務部 (TEL:06-6915-4500)
〈管理運営、評議員会・理事会関係、予算・決算、資産運用等〉
- ◆企画事業部 (TEL:06-6915-4516、4513)
〈顕彰事業、助成事業、普及啓発、国際交流、フォーラム、セミナー、調査研究、資料収集等〉

顕彰事業

1. 2024年(第31回)「コスモス国際賞」

国際花と緑の博覧会(以下「花の万博」という。)の「自然と人間との共生」という理念に合致する研究活動や業績を顕彰し、永く記念するため2024年(第31回)「コスモス国際賞」事業を実施します。

令和6年度は、2024年の受賞者選考及び決定に加え、2025年の選考準備を行います。2024年の受賞者は7月中旬に決定し、11月に授賞式を開催します。

2. BIEコスモス賞

博覧会国際事務局(BIE)が実施し、当協会が協力する「BIEコスモス賞」については、次の開催となる「2025年日本国際博覧会(大阪・関西万博)」に向け、BIEと協議を進めます。

3. 全国花のまちづくりコンクール

花の万博を契機に、「花とみどりの国づくり及びまちづくり」を目的として創設された「花のまちづくりコンクール」について、推進協議会に参画し、実施します。

助成・協働事業

1. 花博自然環境助成事業

花の万博理念の継承発展及び普及啓発に資する「調査研究」、「活動・行催事」の助成を実施します。

普及啓発事業及び国際交流事業

1. 次世代育成事業

協会事業に関係する学者、知識人等を講師として小学校へ派遣する「小学校講師派遣事業」については、引き続き対面及びオンラインにより実施すると共に、協会YouTubeチャンネル「花博チャンネル」に同様の動画を配信します。

また、若年層をはじめとした年代に、コスモス国際賞受賞者の業績を波及させるため、「コスモス国際賞受賞者漫画読本」の発刊を進めます。

さらに、全国の高校生が地域の自然や生業を調査、撮影するコンテスト「全国高校生「地域の自然」甲子園」(通称:ネイチャー甲子園)を引き続き実施します。

2. 都市緑化推進運動等への協力事業

都市公園の整備、民有地の緑化により都市における豊かな生活環境の実現を目的とする「都市緑化推進運動」、及び住民参画のもと創意・工夫を生かしたまちづくり推進を目的に実施される「まちづくり月間」に協力します。

3. 普及啓発事業

花の万博開催の地元である大阪で開催される「大阪都市緑化フェア」や「はならんまん」などの普及啓発イベントに協力すると共に、みどりのまちづくりに貢献する美しい景観を表彰する「みどりのまちづくり賞」に参画します。

また、2025年日本国際博覧会協力事業として、特定費用準備資金による施設参加を行うと共に、引き続き「万博の桜2025」の実行委員会事務局として、PRや寄附の受け入れ等を行います。2027年横浜国際園芸博覧会については、情報提供等の他、関連シンポジウムの開催や支援協力の準備を行います。

情報発信については、「コスモス国際賞受賞記念講演会」をハイブリッド型(リアル・オンライン)で開催し、全国への発信に努める他、情報誌『KOSMOS』の刊行を引き続き行うと共に協会ホームページの充実を図ります。また、協会諸事業の動画や告知等の情報を、ソーシャルメディアに配信し、露出を図ります。

また、花の万博資料や当協会の蓄積情報のアーカイブとしてのデータベース化を引き続き進めます。

さらに、中期計画に掲げる、他団体との連携・協働の推進として、公益社団法人日本植物園協会、公益社団法人日本動物園水族館協会との共催による「自然と人間との共生フォーラム」を引き続き実施します。

4. 国際交流事業

2021年コスモス国際賞受賞者ピーター・ベルウッド博士著作物の邦訳本を国内外に配付し、賞の理念の普及に努めます。

また、日本に避難しているウクライナ留学生のこころの癒しのために花を贈る「フラワープレゼント」を実施します。

調査研究・資料収集事業

「温帯地域の花木・鑑賞樹木に関する国際シンポジウム」の第5回大会(4月:松江)に共催し、日本の花木にまつわる研究の国際的な発信の場をサポートします。

また、過年度助成団体等との連携や、協会事業に沿った企業のSDGsやメセナの取り組みを調査し、協働の方策を検討します。

さらに、関西の自然・文化を体験する「共生ツアー(エクスカージョン)」を、関西広域連合との連携により実施します。



公益財団法人 国際花と緑の博覧会記念協会

〒538-0036 大阪市鶴見区緑地公園2番136号

TEL.06-6915-4500 FAX.06-6915-4524

<https://www.expo-cosmos.or.jp/>

EXPO'90
FOUNDATION

表紙の写真 「デイジー」

2023年(第30回)コスモス国際賞受賞者シュレイダー=フレシェット博士ご自身のご結婚式での思い出の花です。

写真は、授賞式用のコサージュ、ブートニアとして制作したものです。

